

宮沢地区公民館だより



令和6年4月1日
発行：宮沢地区公民館
電話・FAX22-0433

4月の区長会総会の議案審議

【代表区長会議】

3月12日(火)午後2時30分から5時20分まで宮沢地区公民館に於いて、これから4月区長会総会に向けた議案審議を協議しましたので、主な内容を報告いたします。

【2/28 連合区長会会長・副会長会議の報告】

市連合区長会 ①会長・副会長会議 4月11日(木)午前10時～ (市役所)
②総会 4月23日(火)午後1時30分～ (サルナート)
能登半島震災義援金の対応については、連合区長会総会に提案する予定。

【協議事項】

- 宮沢小学校の学校だよりの全戸配布について
現在は、毎月1日付け回覧板になっている。1月18日宮沢小のアドバイザー会議で意見として「回覧板は、全部回るまで時間がかかる。小学校の統合まで残り3年であり、子どもを地域の「宝」として、家庭と地域が連携することが求められている。学校は地域の財産である。学校だよりは、保存まで考えて手元に残らないと文化が後退することになる。全戸配布してほしい」とあった。今後開かれる区長会総会に学校だよりの全戸配布の役割と地域の関りを区長さん方に説明して、方向性を決めることにした。
- 区長会総会について
R5年度事業と決算は、おかげ様で概ね予定通り終了。新年度もさらに連携を取り「知恵を出し合い縮充へ」進める。各集落の自主防災会の活動推進と情報交換、防災対策のため、宮沢地区自主防災組織連絡協議会を立ち上げる。区長会会計の中に予算措置を行う。
総会 4月10日(水)宮沢地区公民館、午後3時～4時45分予定
・令和5年度事業報告、会計決算見込み報告
・令和6年度事業計画(案)、会計予算(案)
敬老会は、昨年と同じ敬老祝品贈呈(案)で提案する。
・宮沢地区自主防災組織連絡協議会会則(案)
- 安全祈願祭について
・4月10日(水)御所神社 朝7時～7時30分

吹矢大会

3月5日(火)吹き矢大会の開催。12月から週一回の月曜日に練習を重ねてきた。

吹き矢は、食べ物の飲み込みをスムーズにして、誤嚥を予防する効果もある。

的の点数に思うように矢が刺さらず、ため息が出たり、高得点に歓声が上がったり楽しい時間を過ごした。



中刈棚田米でカレーの試食

3月19日(火)に中刈集落の棚田米「雪きり」を使ったカレーライスを食べた。ターメリックを入れたお米と玉ねぎ、ニンニクが入ったお米、普通に炊いたお米の三種類をキーマカレーで戴いた。「お米おいしい」という声。米は、ふるさと納税の返礼品にも提供して好評である。



宮沢地区公民館 職員の人事異動

◇お世話になり、ありがとうございました。
館長 鈴木昭雄(2年間・任期満了)
職員 五十嵐真由美(4年間)
(福原地区公民館へ)

◇4月からよろしくお祈いします。
館長 加賀孝一(議会事務局より)
副館長 落合夏樹(2年目)
職員 伊藤千代子(福原地区公民館より)

はなみずき、ヨガ教室

4月10日(水) / 4月24日(水)
時間：10:00～11:00
場所：尾花沢市地域交流センター
参加費：500円
持ち物：ヨガマット
(なければバスタオル)
※当日の参加できます。

特殊詐欺

4月6日(土)～4月15日(月)

春の全国交通安全運動

4月10日(水)

「交通事故死ゼロを目指す日」

- ◇こどもが安全に通行できる道路交通環境の確保と安全な横断方法の実践。
- ◇歩行者優先意識の徹底と「思いやり・ゆずり合い」運転の励行
- ◇自転車・電動キックボード等利用時のヘルメット着用と交通ルールの厳守



【4月の行事予定】

日	内容
5日(金)	さくら保育園入園式
7日(日)	宮沢小学校入学式 新入生5名
10日(水)	安全祈願祭・安全協会宮沢支部総会 防犯協会宮沢支部総会・区長会総会
12日(金)	フラワーロード咲花草会総会 宮沢地区振興連絡協議会・歓迎会
20日(土)	宮沢小、春のリサイクル
23日(火)	宮沢地区歴史保存会総会
25日(木)	おきな茶屋がオープン (お花見)

☆警察庁が2月8日に発表した特殊詐欺の認知件数は、直近10年間で最多となったことが分かった。

特殊詐欺の認知件数と被害額(2023年)

合計	1万9033件	441億円
----	---------	-------

手口別では、未払いの料金があると偽り金銭をだまし取る「架空料金請求詐欺」が最多。特殊詐欺では、8割近くで電話が使われ、うち9割は固定電話にかかっている。

被害にあわないため、下記の点に注意をお願いします。

1. 犯人と話さないために在宅時も留守番設定機能を設定
2. 「電子マネーを買って番号を教えて」は詐欺!
3. 還付金に注意!
4. キャッシュカードを渡さない。暗唱番号を教えない!
5. 儲け話にのらない!

◆ 宮沢駐在員の佐藤さんが、温海に異動。ありがとうございました。4/1付けで、芳賀さんが着任します。

宮沢小学校の児童

ベルマーク10,000点運動 実施中

2024年1月4日～2025年1月24日
地域の皆さんの方も協力をお願いします。「点滴穿石」とは、些細に思えることでも、長い間根気よく続ければ、大きな結果は出せる。

宮沢地区の人口と世帯

(3/1現在)(前月比)
男 782人 (-1)
女 763人 (-2)
計 1545人 (-3)
世帯数 580世帯 (-2)

石をこつこつ積み上げ、人の石垣を（日記メモから）

宮沢地区公民館 前館長 鈴木昭雄

【この2年間のまとめ】

川の石は、角ばっていたり、丸みがあったり、大小様々である。どんな石があるのか現場に行ったり、リーダーや地域の方の話を聞かないとわからない。私が、宮沢公民館に勤務を命ぜられたのは2年前であり、社会教育活動の地域づくりが基本方針として掲げられていたが右往左往するばかり。今回3/31付け退職になり、思い起こせば色んな地域の方のお世話になり、会議や事業、人とのふれあいの中で、この色んな石を積み上げて、崩れたらまた石垣を積み上げる作業だったように感じている。お陰様で、2年間仕事ことができました。

2024年（R6年）

▼1月10日、代表区長会議

新春を語る会など協議。2024年が始まる。宮沢地区として、目指すものが重要だ。ここで私たちを取り巻く現状と活動を点検する。ここに住み続けるとはどういうことか考える。能登半島の震災があったばかりで、すぐ物資で支援できなくとも連帯感を表そう。新春を語る会の開会前に、地震で亡くなった方に黙祷を捧げることに決めた。2024年のテーマ「知恵を出し合い 縮充へ」を考えた。

（説明）「縮充」とは、人口は減っても充実したまちづくりを目指そうという考え方。手を加えれば、温もりのある地域ができる。そのためには、手間も時間もかかり煩雑ですが、固定観念に捕らわれず意見を出し合い、一つずつ進める。

▼1月29日、女性の会 百歳体操

毎週月曜日に昨年から開催して2年目になる。2階の会議室から笑い声が聞こえてくる。百歳まで体操して頑張る。すごいなあ。いや、その前に、笑いがストレスの発散や免疫力の向上につながり、健康増進になる。また、コミュニケーションが図られ、女性の会のチームワークになっている。

▼2月15日、パッチワーク教室の修了式 昨年11月から毎週木曜日に開催

18人女性なので緊張してお手洗いに寄る。館長あいさつ「2000年1月17日、趣味の教室でパッチワークが始まり24年になる。事務局を中心に指導員の方の協力があり『人針に想いを込めて』24年間、今日まで続いています。すごい一言に尽きる。私から集合写真と言葉を添えたプリント1枚を送ります。言葉は『継往開来』先人の事業を受け継ぎ、未来を切り開く。過去のを継続してそれを発展させながら将来を開拓する、という意味です。是非、これからもゆるやかに楽しく続けてほしいものです」。

▼3月18日、宮沢小学校の卒業式

外は吹雪と突風で寒い。卒業生の思い出は、「さわのなは（米）」の活動や運動会「29人の心をもやせ！暑さに負けず」。中学校で頑張るのは「数学、国語、漢字の勉強する」。将来の夢と希望を胸に旅立った。阿部校長は、「これからも挑戦。うまくいかなくても明らめるな」と期待を込めて式辞を述べた。宮沢小学校卒業証書授与は、第96号から98号、制服の似合う男子3人。宮沢小開校して11年目の卒業生だった。

▼3月27日、はなみずき、猪股代表が来館

ボランティア団体の猪股代表とスタッフが、4月から始まる「おきな茶屋」の案内プリントの印刷に来館。ここに安心して暮らすためには、ふれあいのある生活がとても大切。誰でもいつでも利用できる居場所として、高齢者を対象に福祉交流センターを拠点に健康づくりや交流会を続けている。スタッフは、全員ボランティア。山口齊さんのピアノ演奏ではじまり、楽しい企画に笑いが絶えない。約35名の参加者の架け橋になっているのでとてもありがたい。今後4月から12月まで計画している。2018年7月「おきな茶屋オープン」してから5年になり、宮沢地区の交流の場に定着してきた。ボランティアの方、ありがとうございます。

福祉とは、人とのつながりからはじまるのか。



宮沢と満州(10) 洪水防止に貢献し満人に感謝された 中原さん(その2)

昭和21年、母子3人の引き揚げは比較的恵まれて無事父の実家中島の中原さん宅(当主中原昭男さん)にたどり着いた。以後農業を手伝う事となる。そして昭和25年ようやく中原光夫さんがシベリヤ抑留から帰国する。

竹馬の友で半年早く帰国した三浦庸(私の叔父)と共に、これまでの青春時代の空白を取り戻す様に農業に情熱を燃やす。当時は戦後の食糧難が続き、国は農作物の増産のために各市町村ごと「農業改良普及所」を新設した。集落の農業青年に「農業研究会」の設立を促した。前記の二人が中心となり「中島AHクラブ」を立ち上げた。その活動は地域の農業をけん引する役割を果たした。当時は水稲も畑作も増産すればするほど収益になったので、農業研究会は各地に雨後の竹の子の如く誕生して農村は活気に満ちた。

中原さんの息子の康雄さんは宮沢中学校を昭和32年3月卒業すると、満州開拓、義勇軍の父と言われた加藤完治が戦後、茨城県内原に創設した日本国民高等学校に入学する。父親の光夫さんがいかに加藤完治に心酔していたかが伺える。同級生の斉藤武良(正厳)さんも一緒だった。康雄さんが卒業して帰ると光夫さん一家は隣村坂本集落に分家する。そして養鶏と葉タバコ栽培に打ち込むが康雄さんは集落内で螺子(ネジ)工場を共同経営する。

その康雄さんがある年、バイクの東北一周を思いつき旅へ出る。そして八郎瀧干拓が完成し、入植が始まっていた八郎瀧村に入った。そこでたまたま知り合った石山さん宅に一泊する事となり、話をしたら石山さんは山形県最上町出身で、終戦まで康雄さんの母の実家である矢越の柴崎与衛門の小作農家であった事を話す。そこで八郎瀧干拓を詳しく聞いた康雄さんは干拓入植の意欲を燃やす。康雄さんは父の光夫さんに話した。勿論異存はなく、第4次八郎瀧干拓に応募したのである。尾花沢市長の推薦も取り付け、試験も合格して見事入植が実現したのであった。昭和44年度は現地での研修。翌年より水田10ヘクタールの営農を開始した。平成10年私と妻が八郎瀧見学を兼ね中原さん宅を表敬訪問した。どこまでも続く水田は、まるで満州の地かと錯覚するようであった。その折、光夫さんは入院中のような状態だった。数年後病死なされている。光夫さんの人生は南洋からシベリヤ、八郎瀧と波乱万丈だったが最期に康雄さんと共に、水田耕作面積15ヘクタール、米収穫1千俵の大台を実現。満州で果たせなかった大規模農業の夢がついに実現したことを私達も心から喜んでいる。



宮沢地区歴史保存会 三浦幹雄



シベリヤからの引き揚げ船興安丸



中原康雄さん



(左) 現在の八郎瀧



中原光夫さん